



撮影:今田耕太郎(表紙、並びに当ページ)、撮影協力:大阪市、株ノバレーゼ



1935(昭和10)年に完成した旧桜宮公会堂の本体はSRC造だが、建物全体は铸造所の当時の様子に復元され、铸造所の正面玄関と共に鳴る意匠が各所に施されている。明治から昭和へと、時を超えたデザインの調和が優美さを際立たせている。

この正面玄関は、日本が世界列強に比肩すべく自指した近代国家の顔の一つだ。旧大工場のごく一部とはいえ、威厳に満ちた風貌からは、明治政府が日本の将来を託した、祈りにも似た強固な志が迫つてきた。

この正面玄関は、日本が世界列強に比肩すべく自指した近代国家の顔の一つだ。旧大工場のごく一部とはいえ、威厳に満ちた風貌からは、明治政府が日本の将来を託した、祈りにも似た強固な志が迫つてきた。

のファサードとして移築・復元された。

記念館は、戦後「桜宮公会堂」となり、正面玄関は一九五六(昭和三十一)年に国的重要文化財に指定された。現在は婚礼施設を兼ねたカフェエレストラン「旧桜宮公会堂」として人気を集めている。「一帯は市民の皆さん憩いの場になっています。正面玄関は重要文化財として未来に残される建物です。この施設で挙式された方々の思い出とともに永遠に受け継がれることを願っています」と同施設の辰巳誠治マネージャーは話す。

この正面玄関は、日本が世界列強に比肩すべく自指した近代国家の顔の一つだ。旧大工場のごく一部とはいえ、威厳に満ちた風貌からは、明治政府が日本の将来を託した、祈りにも似た強固な志が迫つてきた。

現在、この一帯はオフィスビルや店舗が林立し、当時の面影はない。唯一、造幣寮铸造所の痕跡を伝えているのが、瀟洒な建物の前面に施された、ローマ建築を思わせる正面玄関だ。凝灰質粗面岩(流紋岩)を使った六本のトスカーナ式列柱が支える屋根部は銅板で吹いた切妻造。重厚な木製玄関扉と、その両サイドに配されたアーチ状の窓が優雅な建築美を演出している。

铸造所は一九二七(昭和二)年頃に老朽化のため廃止されたが、その正面玄関は、八年後に完成した「明治天皇記念館」

旧造幣寮铸造所 正面玄関

大阪府大阪市北区天満橋